

○ 目次

1. 代名詞とは
2. 人称
3. 代名詞の格変化
4. 五文型との関係性

1. 代名詞とは

代名詞は主として名詞の繰り返しを避けるために、その代わりとして用いられる語で、時にはそれがさす名詞がないこともある。(『ロイヤル英文法』p. 171)

代名詞 pronouns とは、平たく言えば「何度も同じ単語を言うのはめんどくさいしダサいから、指示語を使って言い換えちゃえ」という発想から生まれたものです。日本語でいうところの「それ」とか「あれ」とか「私」とか「あなた」というような言葉で、すでに登場した(していないこともある)名詞の代わりをするものです。

『ロイヤル英文法』によれば、英語における代名詞は5種類です。

- (1) **人称代名詞** (『ロイヤル英文法』 pp. 173~195、『リード』 pp. 144~145)
→ **人称** (後述) によって形を変える代名詞。I とか he とか she とか。
- (2) **指示代名詞** (『ロイヤル英文法』 pp. 196~207、『リード』 pp. 145)
→ this とか that とかみたいな、指し示す対象の人称に関わらずはっきりと示す代名詞。
- (3) **不定代名詞** (『ロイヤル英文法』 pp. 208~188、『リード』 pp. 146)
→ 不特定の対象を表す代名詞。one や some など。
- (4) **疑問代名詞** (『ロイヤル英文法』 pp. 240~245、『リード』 pp. 145)
→ 名詞の代わりにおいて疑問文を作る代名詞。what とか who とか which とか。今度。
- (5) **関係代名詞** (『ロイヤル英文法』 pp. 632~653、『リード』 pp. 84~91)
→ 先行詞を修飾するでっかい形容詞節を作る代名詞。これもまた今度。

2. 人称

さて、今回はメインとして(1)人称代名詞を扱いたいのですが、そのためにまず確認しておきたいところがあります。それは、「人称ってなんだ?」ということです。日本語ではあまり意識しないことですからね。

人称とは、「その指示語と話者との関係性」のことです。例えば I love you. という簡単な英文を例にとると、主語である”I”は、話者である「私」と一致しますから、この関係の中に登場人物は一人しかいません。そのため、「I”は()人称です。それに対して”you”は、話者である「私」ではないため、”you”と言った時点で登場人物は二人以上となります。そのため、「you”は()人称です。

それに対して、例えば He loves her. という例文を考えてみましょう。文は基本的に誰かに対して語り掛けるものですから、文がある時点で「その文を話している話者」と「それを聞く聞き手(あるいはその文を読む読み手)」が暗黙の内に前提されています。そう考えたとき、この文の主語である”he”と、目的語である”her”は、そのどちらでもありません。つまり、考えられる限り最小の人数構成でいえば、”he”や”her”はこの文において三人目の登場人物です。ゆえに、これらを()人称と呼びます。

つまり、これが一体何人称なのか?と疑問に思ったら、こう考えてください。

私→ () 人称

あなた→ () 人称

それ以外→ () 人称

これを聞いて、「なんだ、簡単じゃん」と思った人、その感覚を大事にしてください。そう思わなかった人、上の表で考える癖をつけましょう。

さて、人称について気を付けることといえば、英語においては一点だけです。それは何か。皆さんは中学生のころに習っていて、なおかつしれっとここまでの間に登場しています。わかりましたか?下に欄を設けておきますので、書いてみましょう。

● ● の

※ コラム 人称の重要性について

英語においては、人称について上に書いた以上の役割や意味は持ちません。ですが、諸外国語においては違います。それは何か。この下に、英語・ドイツ語・フランス語の動詞の変化表を載せてみます。英語は埋められると思うので、埋めてみましょう。

英語 love 「愛す」

	単数	複数
一人称	(I)	(we)
二人称	(you)	(you)
三人称	(he / she)	(they)

ドイツ語 lieben 「愛す」

	単数	複数
一人称	(ich)	(wir)
二人称	(du)	(ihr)
三人称	(er / sie)	(sie)

フランス語 aimer 「愛す」

	単数	複数
一人称	(je) (表記は)	(nous)
二人称	(tu)	(vous)
三人称	(il / elle)	(ils)

わかりますか？人称によって、ことごとく動詞の形が変わるのです。英語はどうでしたか？そうですね、一つだけ変わるところがあります。先ほど確認した、()です。

昔は英語もドイツ語やフランス語のようにゴリゴリと変化していたのですが、ここまでの回で見えてきたように、英語はさまざまな理由で外来語を輸入してきました。動詞もまたそうです。そうすると、面倒なことが起こります。人称変化、どうしよう。別の言語の変化をそのまま使うのはおぼえるコストが高いですね。ということで、活用形はなかったことにしました。身もフタもないですが、たしかにこうすれば万事解決です。とはいえ3人称だけは変えないとわかりづらいので、明晰さと単純さとを天秤にかけた結果、語尾に S をつけるだけというお手軽変化に大変身したわけです。

こうなった弊害もあります。何かというと、主語が無いと誰の発言だかわからなくなってしまった、という点です。例えば同じように人称で動詞が変化するイタリア語は、文に主語が必要ありません。しかしこのことが、英語の文型重視につながるのです。

3. 代名詞の格変化

次は格変化について。代名詞の格変化とは、次の表のようなものです（別にまとめるのが面倒なので一部別のも入れてます）。多分わかると思うので、埋めてみましょう。

	一人称 単数	一人称複 数	二人称 単数	二人称 複数	三人称 単数 (男)	三人称 単数 (女)	三人称 単数 (物)	三人称 複数
主格								
所有格								
目的格								
所有 代名詞							()	
再帰 代名詞								

格変化について、覚えてほしい大事なことは次の章でやるとして、ここで確認すべきことは二つです。一つ目は、そもそも格とは何か、ということ。そして二つ目は、なぜ、代名詞だけ格変化を起こすのか?ということなのです。

一つ目。『ロイヤル英文法』によれば、格とは「文中の他の語句との関係性を示す語形」（『ロイヤル英文法』p.115）のことです。つまりはということかということ、文中における単語の働きの名前です。ここでいう「働き」とは、主語であるとか、目的語であるとか、そういうことです。

二つ目。なぜ英語においては代名詞だけ格変化を起こすのか。これについては、もう散々登場した英語の成り立ち、すなわち、現在の英語はさまざまな言語から色々な単語（や文法）をゴチャゴチャと輸入してきたからです。その結果、もうとりあえず五文型をまもるようにすればいいやというシステムに代わっていき、それまで格を使っていたところを、五文型という、単語を並べる順番によって表現できるようにしていったわけです。

前にも話しましたが、現代においてもドイツ語には格変化が残っています（あとロシア語とかにも残っている）。英語においては主格・所有格・目的格の三つですが、ドイツ語においては1格・2格・3格・4格という四つに分かれます。1格が主格、2格が（もう少しさまざまな用法がありますが）所有格、3格・4格が目的格にそれぞれ対応します。

このとき問題となるのは、ドイツ語における3格と4格です。これらは目的格ですが、それぞれ3格には与格、4格には対格という別名があります。これはということかということ、ドイツ語においては、目的語を2種類使い分けるわけです。この使い分けは、英語においても、格には現れませんが存在します。わかりますね？目的格が2回出てくる第（ ）文型です。この話は初回にもしましたが、もう一度確認しましょう。

では、これから黒板に書く日本語を英語に直しましょう。

日本語：

英語：

このとき、「彼女に」が与格、「(一輪の) 花を」が対格にあたる目的語になります。すなわち、「～に」が与格、「～を」が対格です。つまり、第四文型 SVO₁O₂のうち、O₁が()格、O₂が()格、ということになります。

この区別についても、以前は英語でもかっちりやっていたのですが、主語と≠という意味では同じじゃね?ということから、区別しなくなりました。

ちなみにフランス語やイタリア語では、英語と同じように格変化はほぼ消滅しています。またこれらの言語の補語や目的語というくりに関していえばもっとすごくて、補語だろうが目的語だろうが動詞の後ろに来るのは同じじゃね?という観点から、人称代名詞のひとつとして目的補語人称代名詞というデタラメな品詞が登場します。

4. 五文型との関係性

さて、これで一通り見てきたので、最後に五文型との関係をまとめて終わりにしましょう。

五文型はもう覚ええましたよね? 平たく言えば、主格なら()語に、目的格なら()語にそれぞれ使われる、ということは必ず覚えてください。なぜって? 文を見たとき、どれが主語か、どれが目的語か? ということが、人称代名詞があれば一発で(あるいは二発で)わかるからです。

それ以外は、例えば所有格は()詞、所有代名詞と再帰代名詞は()詞と同じ働きをします。ということは、五文型中でどの位置におけるか、わかりますよね?